

令和 7 年度多国間空挺演習（国内）について

令和 7 年 1 2 月
防 衛 省

令和7年度多国間空挺演習（国内）について

【目 的】

同盟国・同志国等との共同による降下及びそれに引き続く一連の行動を演練し、空挺作戦能力及び相互運用性の向上を図るものです。この際、同盟国及び多数の同志国等が参画している1月初旬の習志野駐屯地・演習場における降下訓練始め等と接続させることでさらなる連携強化が可能となり、我に望ましい安全保障環境の醸成に寄与します。

【意義・必要性】

- 我が国は、安全保障上の課題が集中する地域です。このため、インド太平洋地域における同盟国である米国のみならず、普遍的価値を共有する同志国等との連携・関係を強化することが必要不可欠です。
- また、我が国は南西諸島を含む多数の島嶼を有しており、航空機を用いて部隊等を迅速に展開できる空挺作戦能力の向上や相互運用性の向上を図ることは極めて重要となります。

【特 性】

- 陸上自衛隊が主催する国内で初めてとなる空挺作戦に係る日米英の多国間訓練
- 降下訓練始め（NYJIP26）及び今後予定しているノース・ウィンド（NW26）との接続による訓練の効果的・効率的な実施

【期間（基準）】

令和8年1月13日（火）～20日（火）（総合訓練は1月16日（金）～19日（月））※期間前後に準備、撤収を予定

【場 所】

訓練場所は、予行訓練は習志野駐屯地（千葉県）、総合訓練は王城寺原演習場（宮城県）の使用を予定。また、陸上自衛隊第1空挺団の隊員、米軍及び英軍の隊員を航空機等に搭乗させるため、航空自衛隊入間基地（埼玉県）及び在日米軍横田基地（東京都）を使用予定

【参加部隊】

- 日 側：陸上自衛隊第1空挺団、第1ヘリコプター団 等（※航空自衛隊航空支援集団の支援を受ける）
- 米 側：第11空挺師団、第3海兵機動展開部隊 等
- 英 側：第16空中強襲旅団戦闘団

【訓練内容（基準）】

- 予行訓練：習志野駐屯地において、王城寺原演習場で行う日米英の空挺作戦に係る認識統一及び予行を実施
- 総合訓練：共同による自由降下及び空挺降下に引き続く降着戦闘から地上戦闘までの一連の行動を実施（使用装備品は航空機を除き小火器のみ（実弾射撃なし））

習志野駐屯地の使用について

【習志野での予行訓練イメージ】

参加部隊との認識共有



各国指揮官等による机上予行



参加隊員による調整会議



降下前訓練（模擬扉訓練）



降下前訓練（操縦訓練）



使用期間について

- 令和8年1月13日（火）～14日（水）

予行訓練について

- 習志野駐屯地で実施する内容は、王城寺原演習場で行う日米英の空挺作戦に係る認識統一を実施するとともに、各国指揮官等による机上予行を実施します。
- また、降下要領及び不測事態時の対処要領等について認識統一をするための共同ブリーフィングや、降下前及び降下後の動作確認を実施します。
- 習志野駐屯地において降下訓練を実施する予定はありません。また、本訓練全般として、実弾を使用した訓練は予定しておりません。

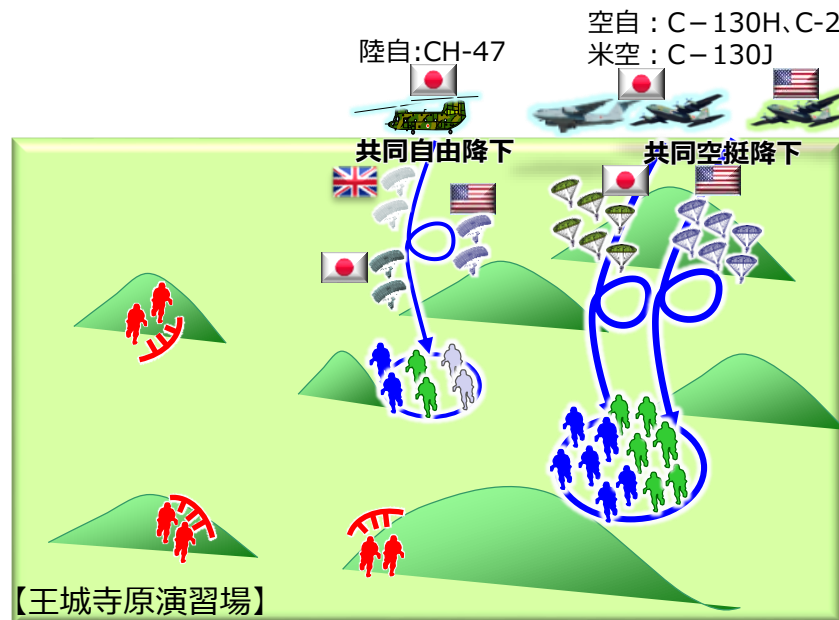
王城寺原演習場の使用について

王城寺原演習場における訓練は、同盟国・同志国等との共同による自由降下及び空挺降下並びにそれらに加えて降着戦闘から地上戦闘までの一連の行動を演練する総合訓練を実施する予定。また、本訓練全般として、実弾を使用した訓練は予定していない。

【期 間】 令和8年1月16日（金）～19日（月）※
※ 本期間の前後に、それぞれ展開・撤収を実施予定

【参加部隊等】 陸 自：約410名 陸上総隊（第1空挺団、第1ヘリコプター団等）
CH-47×3機、無反動砲、機関銃、小銃等の小火器
※空自の航空支援集団（約20名）から輸送機（C-2×1、C-130H×2）支援
米 軍：約150名 第11空挺師団、約30名 第3海兵機動展開部隊、
C-130J×4機、無反動砲、機関銃、小銃等の小火器
英 軍：英約10名 第16空中強襲旅団戦闘団 小銃等の小火器
オブザーバー：調整中

訓練要図のイメージ



※空自の航空機は空挺降下訓練を支援

訓練景況（イメージ）

